

平成25年2月5日 新地町沿岸部の防潮
堤、防災緑地、県道相馬亘理線、三滝川が
都市計画決定しました。

平成25年4月

新地町

福島県 相双建設事務所

都市計画決定のスケジュール

- 1 都市計画説明会 平成25年12月27日(木)
- 2 案の縦覧 平成25年1月8日(火)～1月22日(火)
- 3 新地町都市計画審議会 平成25年1月25日(金)
- 4 福島県都市計画審議会 平成25年1月29日(火)
- 5 復興整備協議会 平成25年2月1日(金)
- 6 都市計画決定 平成25年2月5日(火)

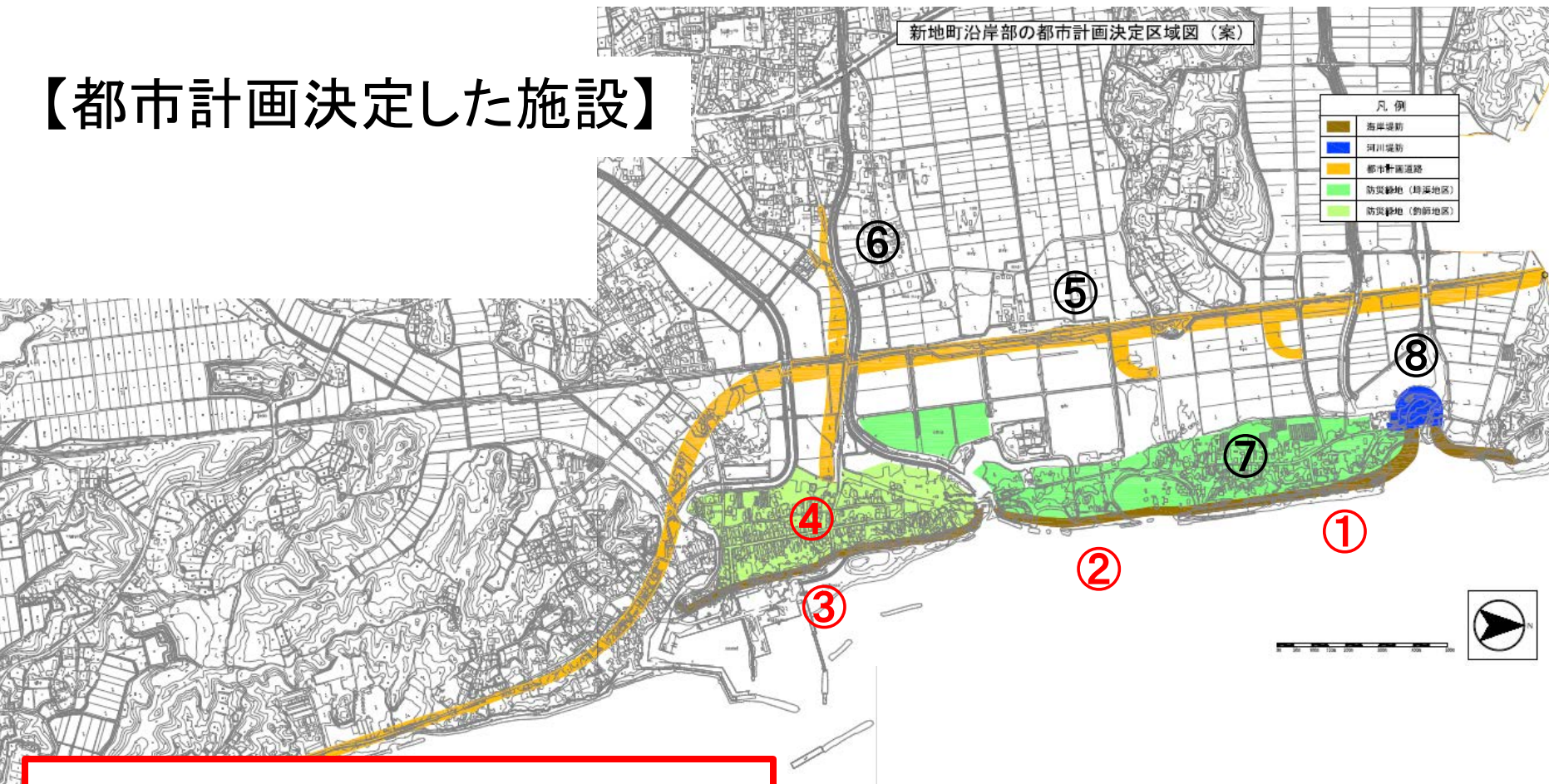
都市計画決定（1）

防潮堤、防災緑地、県道相馬亘理線、三滝川は、津波被災に対し安全なまちの形成に向けた計画的な土地利用のため、多重防御に重要な施設として都市計画に位置づけ整備するものです。

都市計画決定（２）

今回の都市計画決定は、東日本大震災復興特別区域法に基づく『復興整備計画』を活用して都市計画決定を行うものです。

【都市計画決定した施設】



新地町都市計画審議会

- ①木崎地区海岸防潮堤
- ②埴浜地区海岸防潮堤
- ③谷地小屋地区海岸防潮堤
- ④釣師防災緑地（新地町）

福島県都市計画審議会

- ⑤県道相馬亘理線（浜畑磯山線）
- ⑥県道新地停車場釣師線（桶掛田浜田線）
- ⑦埴浜防災緑地（福島県）
- ⑧三滝川

復興まちづくりの考え方

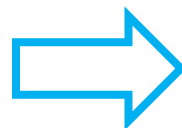
- ▶ 海岸堤防のみの防御から、高台移転や、防潮堤、防災緑地、相馬亘理線、避難計画など、**複数の手法を組み合わせた「多重防御」**による総合的な防災力が向上したまちづくりを目指します。
- ▶ なお、**発生頻度が高い津波**（数十年～百数十年に一度程度）は、**海岸堤防による防御**が可能となるよう、防潮堤を嵩上げ整備します。

海岸堤防の高さについて

「頻度の高い津波」と「最大クラスの津波」

「頻度の高い津波」

- ・最大クラスの津波に比べて発生頻度は高い
(数十年～百数十年)



「頻度の高い津波」に対しては、人命保護、住民財産の保護、地域の経済活動の安定化などの観点から、**海岸保全施設整備**を行う。

「最大クラスの津波」

- ・発生頻度は極めて低い
(東日本大震災による津波相当)
(数百年～千年)



「最大クラスの津波」に対しては、住民等の避難を軸に、土地利用、避難施設、防災施設などを組み合わせて**総合的な津波対策**を行う。

相馬亘理線整備の目的

■非常時

最大クラス（千年に1度）の津波が発生した時の多重防御の1つとして機能。

（ 県道とJRや町道と交差するため、高さが現地盤から約+6mとなるため、防潮堤、防災緑地とともに減災効果を発揮する。 ）

■通常時

- ▶ 新地町の沿岸部を南北に結ぶ幹線道路。

防災緑地の目的

■非常時

最大クラス（千年に1度）の津波が発生した時、相馬亘理線と一体となり多重防御の1つとして機能。

- ▶ 津波の速度を遅くし、避難時間を確保
- ▶ 津波で流されたものを捕捉し、建物等の被害を低減

■通常時

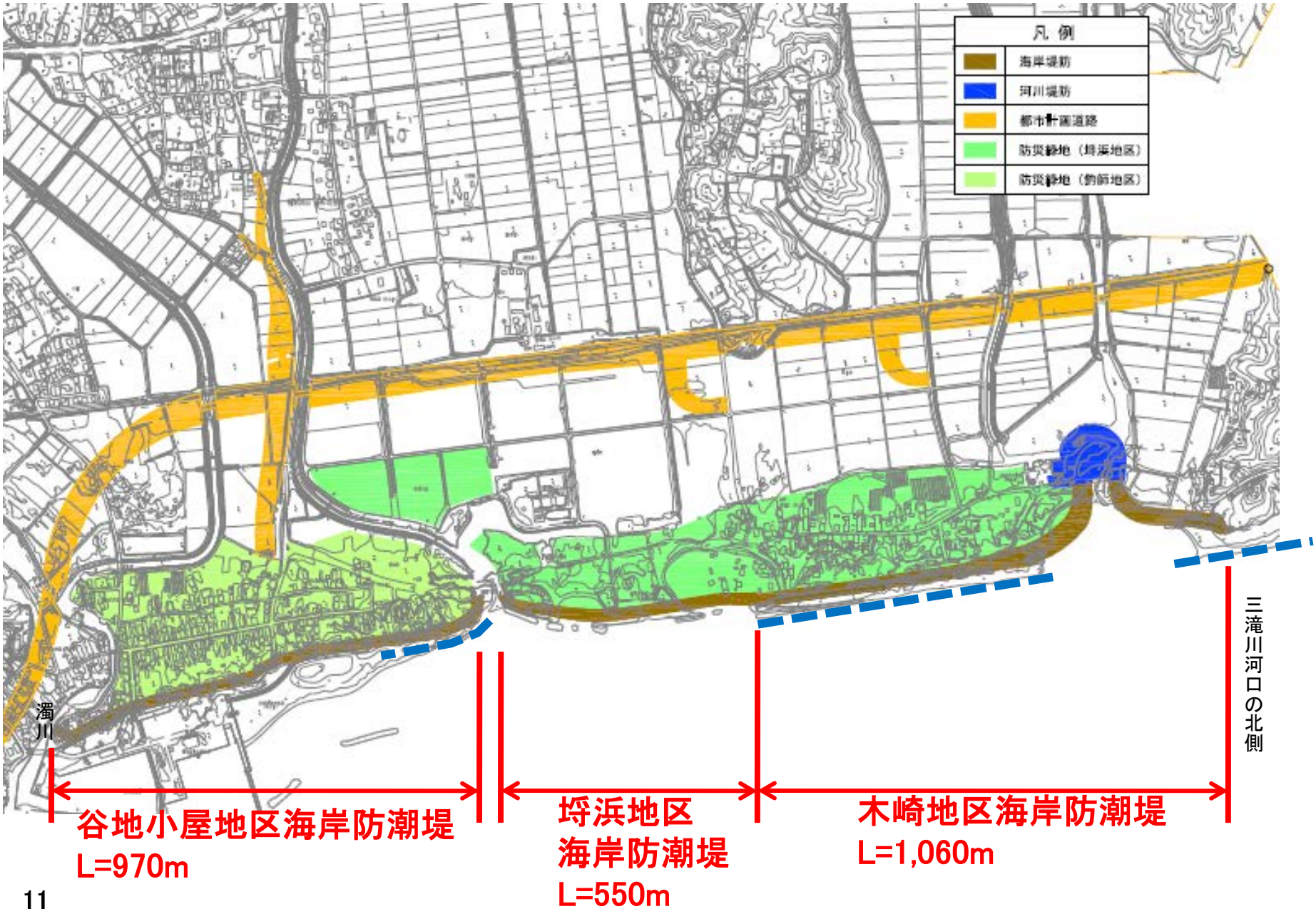
- ▶ 防砂・防風・防潮機能
- ▶ 風景や自然環境の再生
- ▶ 地域資源として活用（非常時の目的を阻害しない程度）

三滝川の目的

発生頻度が高い津波（数十年～百数十年に一度程度）は、河川堤防による防御が可能となるよう整備。

最大クラス（千年に1度）の津波が発生した時の多重防御の1つとして機能する。

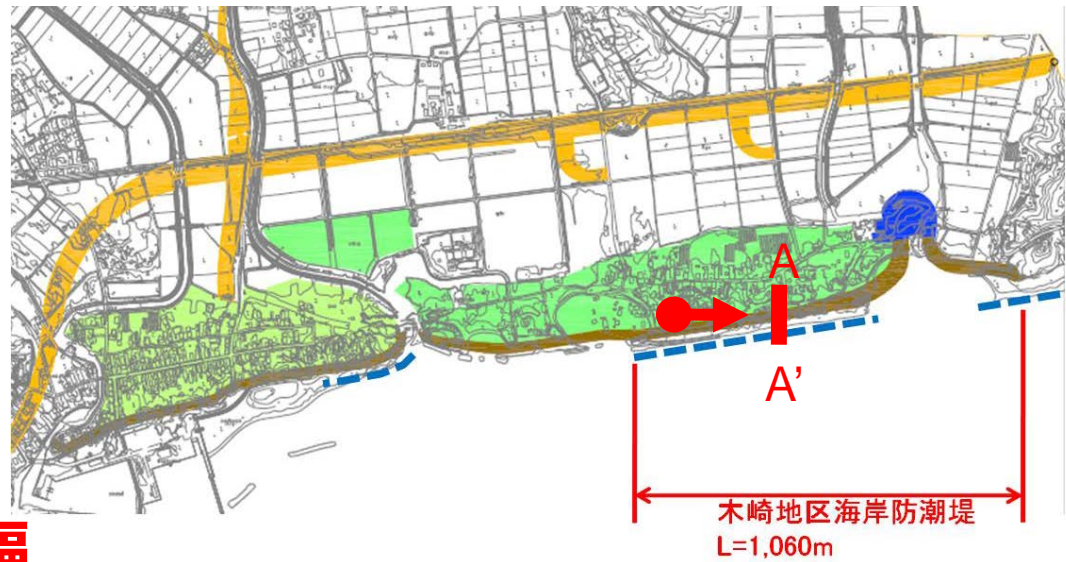
【防潮の施設(新地町)】



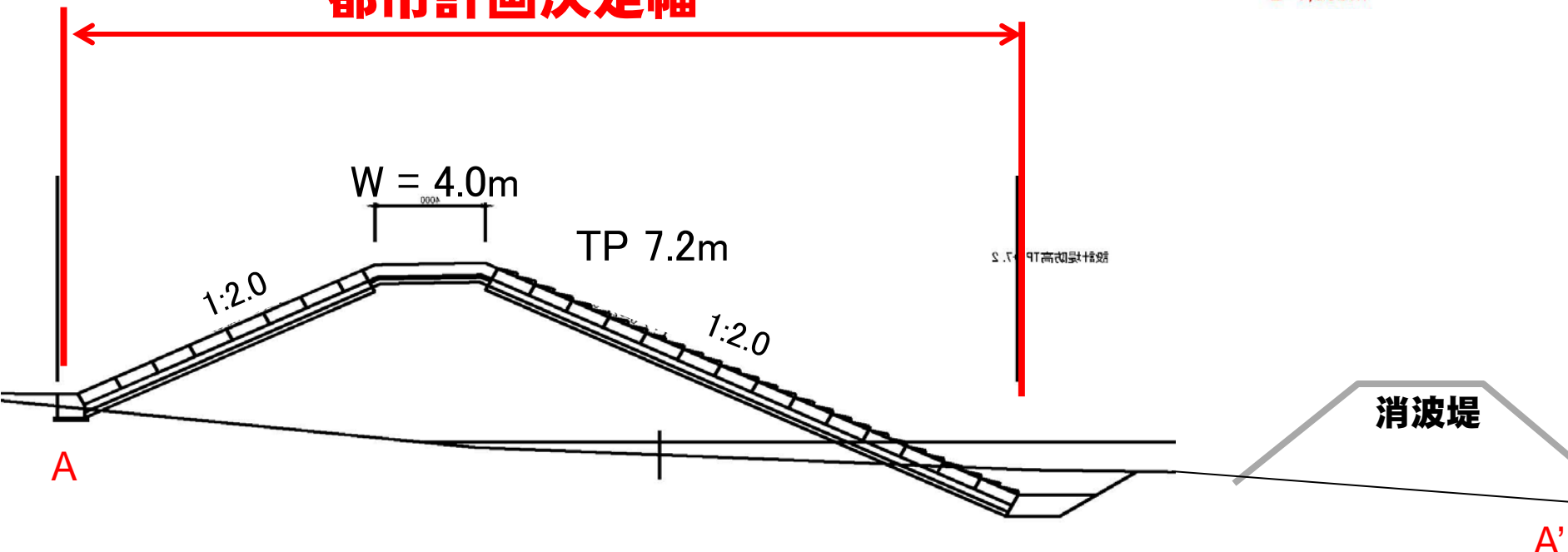
【新地町】

木崎地区海岸防潮堤

防潮堤横断図



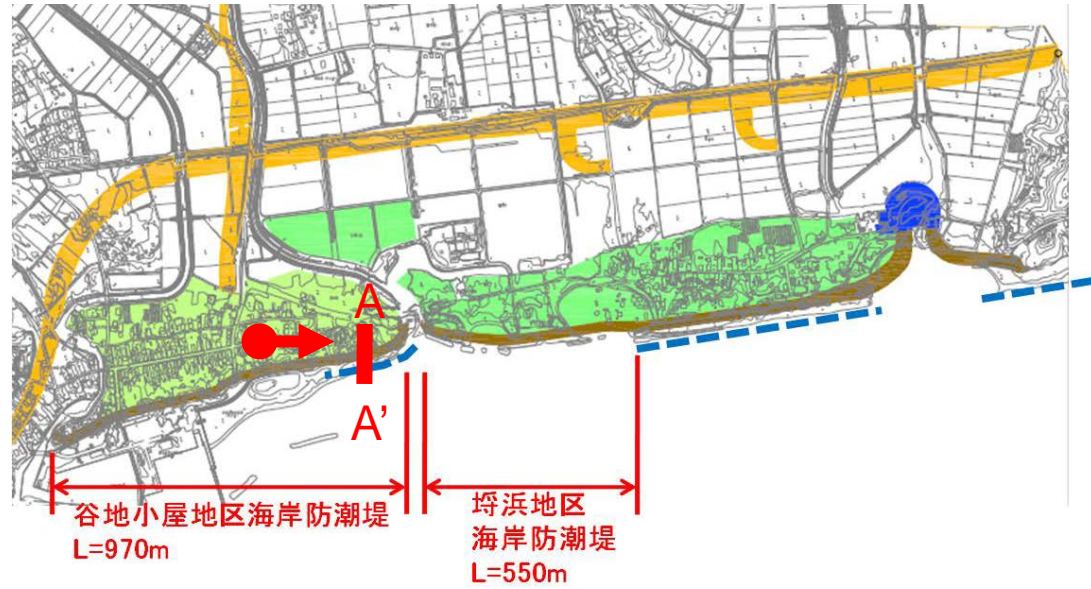
都市計画決定幅



【新地町】

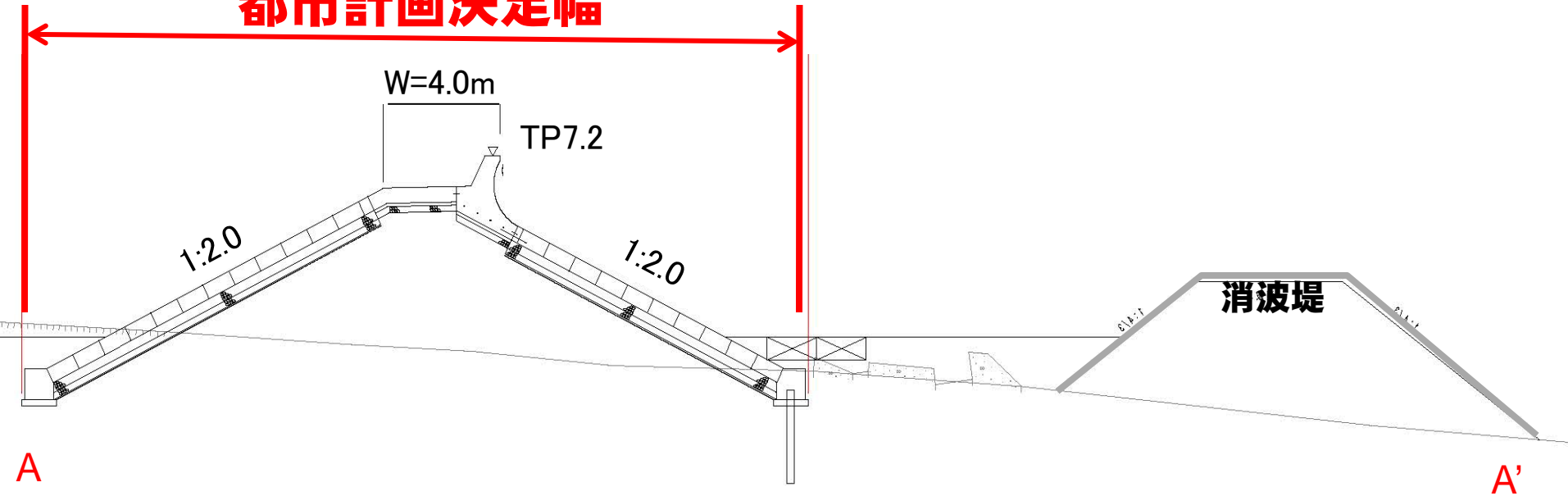
埕浜地区海岸防潮堤

谷地小屋地区海岸防潮堤



防潮堤横断面図

都市計画決定幅

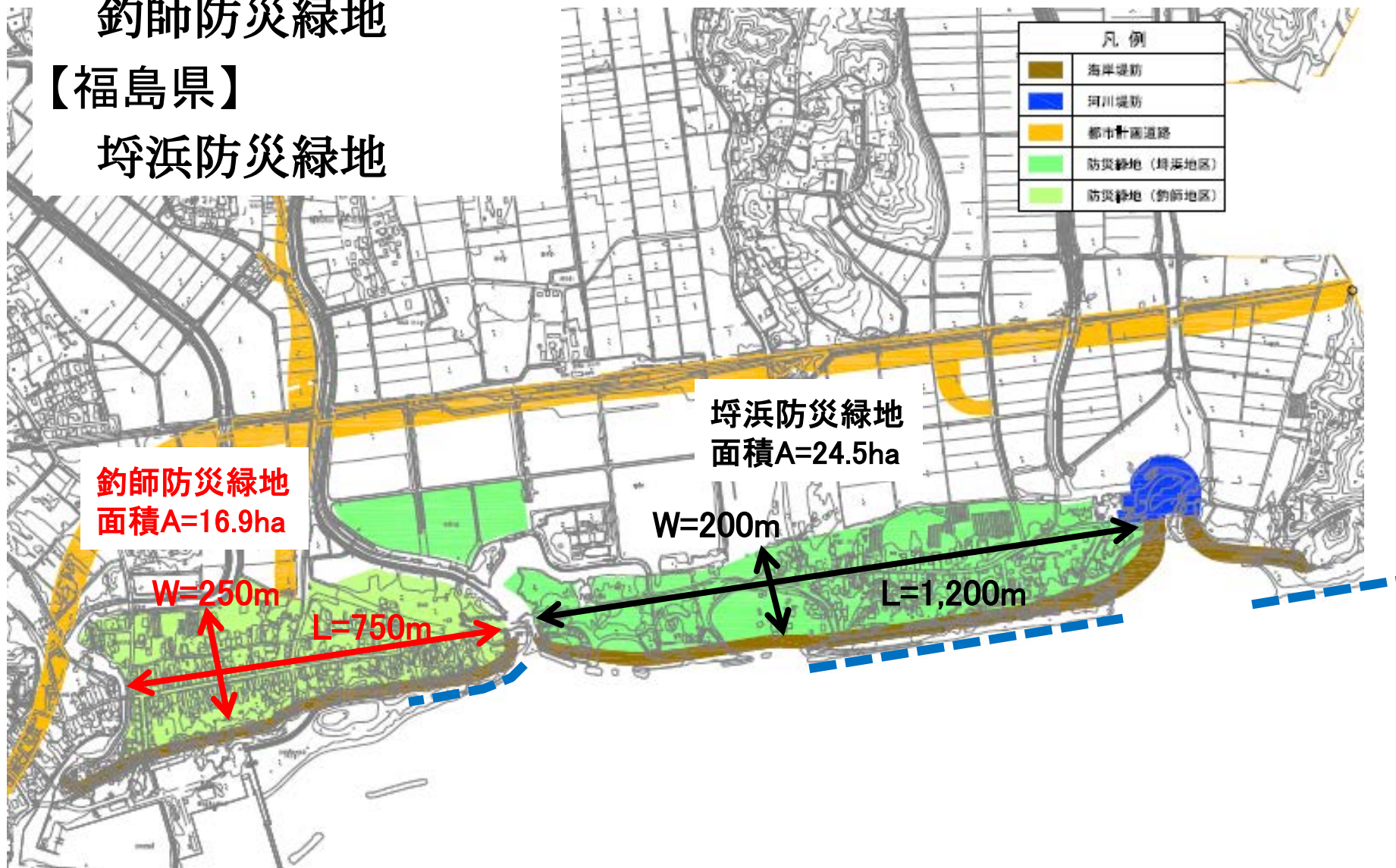


【新地町】

釣師防災緑地

【福島県】

埴浜防災緑地



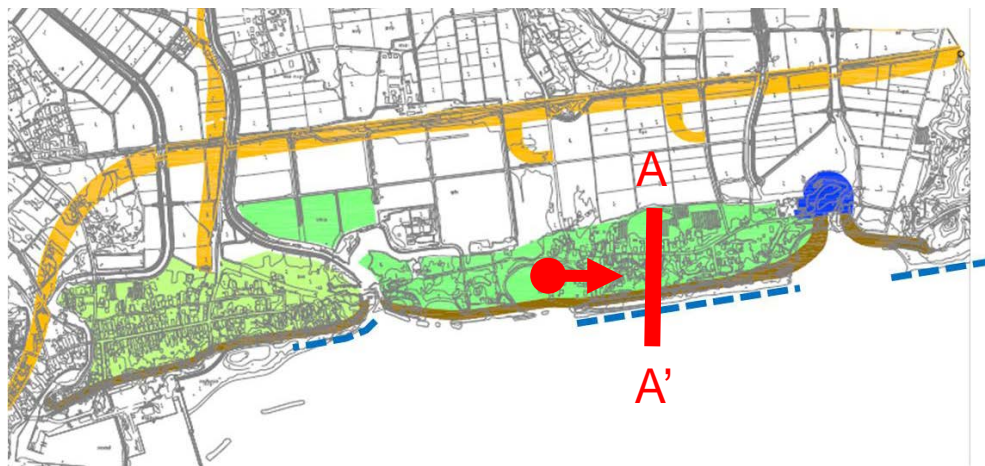
釣師防災緑地（新地町） 代表横断図



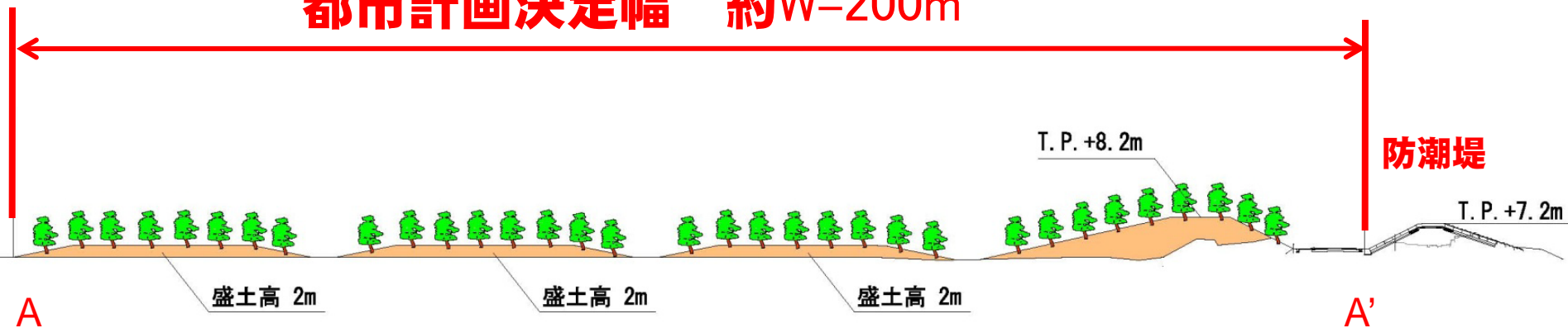
都市計画決定幅 W=約250m



埤浜防災緑地（福島県） 代表横断図



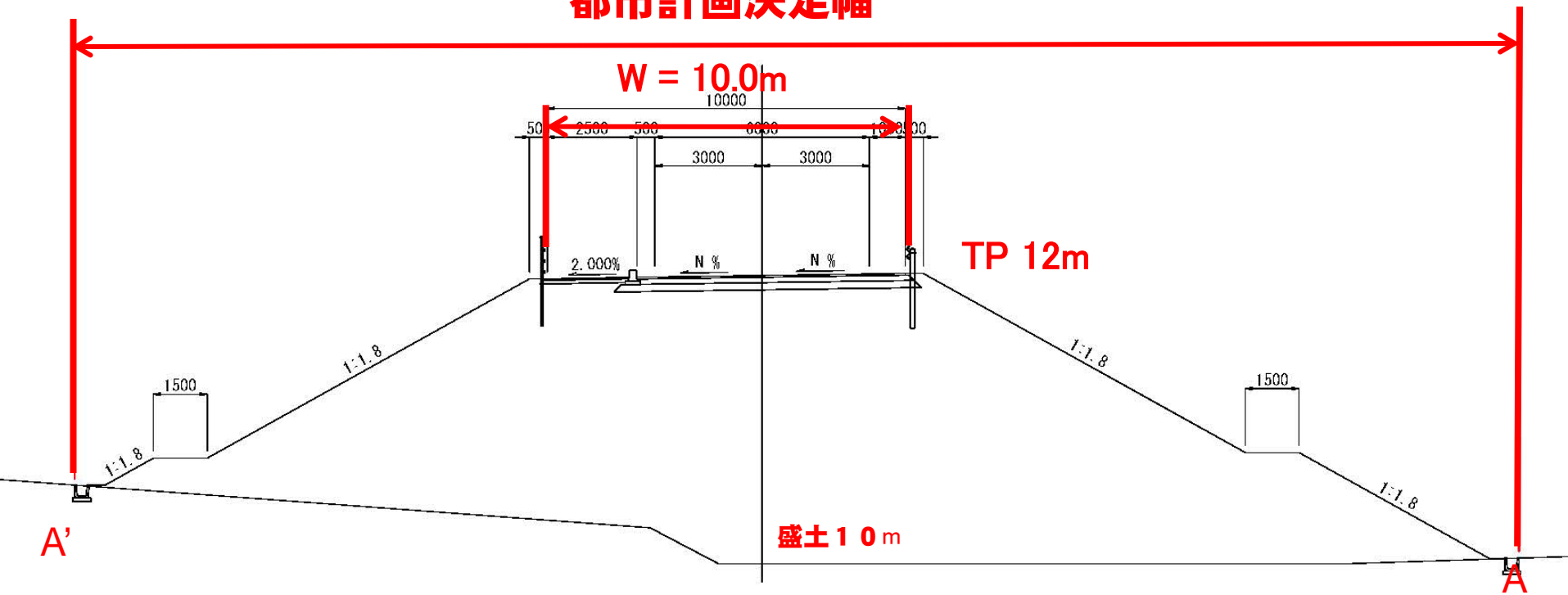
都市計画決定幅 約W=200m



相馬亙理線 (福島県) 代表横断図



都市計画決定幅



三滝川（福島県） 代表横断図



都市計画決定幅 70～110m

